

# 古賀の瓦業

古賀の瓦業は、元禄時代に堺から瓦師を呼び寄せて始まったといわれています。(古賀町誌) 福岡藩では、黒田長政入城の折、播州から瓦師を連れてきて、博多に瓦町を形成し、御用瓦として城下の瓦業を統括しました。瓦町より五里(20キロメートル)以内の地域での瓦生産は禁止され、今宿以西、古賀以東に瓦業の発達した地域が見られます。なかでも古賀は、江戸時代中期以降今宿と並び称される代表的な産地だったようで、貝原益軒著の『筑前国続風土記』(宝永6(1709)年自序)にも

卷之二十九 土産考

瓦 博多に瓦町とて、瓦士の集り住る町一坊あり。屋瓦及もろもろの瓦器を作る。夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬など所々にて作る。又近年、志摩郡今宿にて作る。と記載されています。

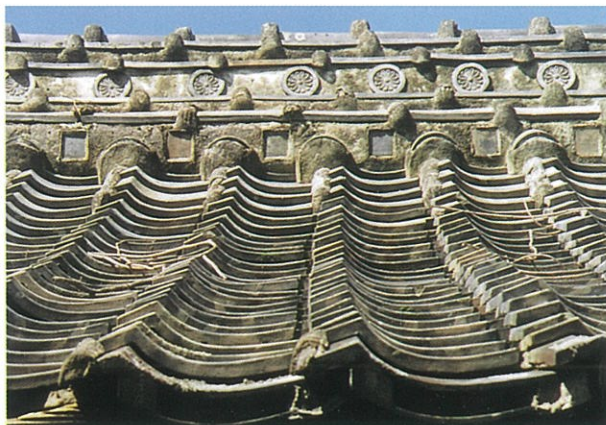


古賀市内の鬼瓦

古賀で瓦業が発達した背景に

- \* 花鶴から庄にかけての良質の瓦土(粘土)の産出
- \* 古賀松原や植林された松山の樹木、松葉等豊富な燃料
- \* 花鶴川の水運の好条件があり、江戸時代末期から明治時代初期には、古賀では四軒の瓦屋で五万五千枚、金額にして九百六拾七円八拾銭の生産を誇っていました。

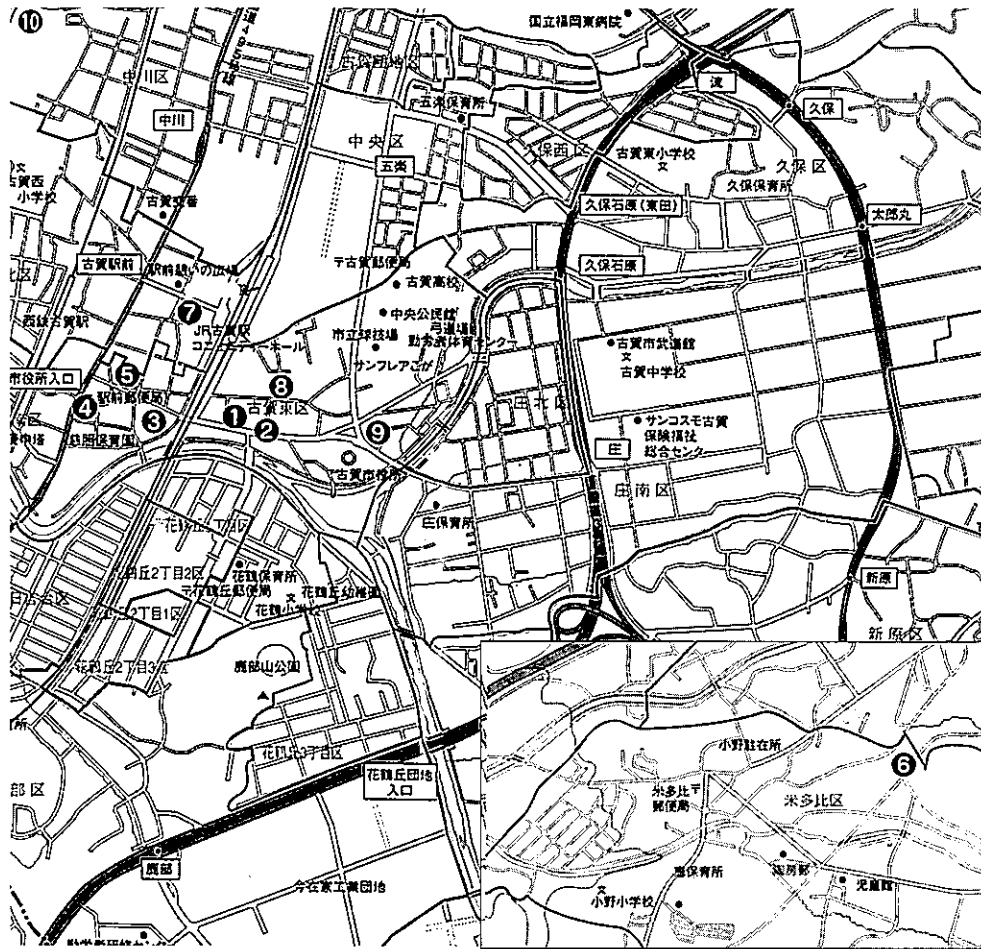
(福岡縣地理全誌 明治5(1873)年編輯)



為息庵の瓦

一 茶藨戴万枚	此代金戴拾貳圓七拾貳銭	一 ホウロク千貳百	此代金四圓	一 小土器三万	此代金九百六拾七圓八拾銭	一 瓦五万五千枚	此代金五拾五圓貳拾四銭	一 醬油拾石	此代金千四百四拾圓
長崎兵次郎 高原勝若河門製		長崎兵次郎製		長崎兵次郎 高原勝若河門製		四戸製		三輪善十郎製	

福岡縣地理全誌



古賀の瓦業は江戸時代から昭和30年代後半まで、脈々と営まれていました。

1. 森與三瓦屋  
江戸時代～昭和36年3月まで古賀神社より100m西側で瓦業を営み、代々定七を名乗っています。その後與三。昭和に入っては、森喜久次が当主となり與三を継いでいます。
2. 森七三郎瓦屋  
江戸時代から古賀神社横にあった瓦屋。  
質が良く、たたいてみると金属性の音がするといわれるほど焼きしめられていました。
3. 長崎兵三郎瓦屋  
通称 兵 (カネヒョウ)  
江戸時代末期から昭和初期まで前田橋近くにて瓦業。ハウロク、カワラケ等もつくっていました。「福岡縣地理全誌」には、ハウロクの生産者として長崎兵次郎が見えます。
4. 姫路屋瓦屋  
花鶴川沿い慈照保育園の北側から国道495号線に至るところにあった瓦屋。瓦屋と同時に雑貨等を商う萬屋でした。
5. 三輪瓦屋  
三輪信太郎、萬蔵、喬の三代続いた瓦屋。古賀駅前郵便局前のタバコ屋はその一角で、一代目より当地で瓦業。
6. 米多比長峰瓦屋  
米多比飛池(現在島本工業(株))にあった瓦屋。  
小ぶりの瓦が特徴でした。
7. 源一郎瓦屋  
明治から昭和初期まで古賀駅前小松屋旅館裏手にあった瓦屋。
8. 古賀合資会社瓦屋  
青柳四つ角の為息庵付近にあった瓦屋。  
創業は1900年～1920年ごろと考えられます。
9. 山片瓦屋  
福岡県中央信用組合付近にあった瓦屋。
10. イスズ瓦屋  
古賀海岸の砂を材料にセメント瓦を作っていました。  
昭和21年創業。

